

本区は俳句教室を継続してきています。1年生も俳句を作る経験をしています。

夏休み前は平仮名表記の学習中なので、自分で自分の俳句を書けるようになる後期に講師を派遣するようにしています。

まだ、十分に文字が書けない時期でも音のリズム遊びや好きな俳句を暗唱したりするなど、俳句に親しむことはできますが、記述までこどもたちに任せているため、時期は大切にしています。

初めに、「俳句は、原則、五七五」「これは、文字の数ではなく音の数」「季語を入れる」等の原則を伝え、作句用紙の使い方を確認します。

本区に所縁のある松尾芭蕉さんの「ふるいけや/かわずとびこむ/みずのおと」を覚えながら、用紙に書いていきました。

「クイズ！俳句に使うときの音の数は？」で自分の名前と友達の名前の音数を数えました。「べっしょ」さん「しょうじ」さん「りょうたろう」さん「しゅん」さん等々、指折りながら数えていました。

「4月にできなかったことで、今はできるようになったことを俳句にしましょう」との講師の声かけで、こどもたちは、「字がきれいにかけるよ」「おそうじがじょうずになったよ」「けいさんがはやいよ」「かんじをおぼえたよ」と、自分の成長を振り返っていました。

「どんぐり拾いしたんだ」「おうちの人も忙しそうだ」と視点が広がっていきます。1年生の授業は45分1単位なので、口頭で発表して聞き合いました。

『十月にバイオリンひく1年生』

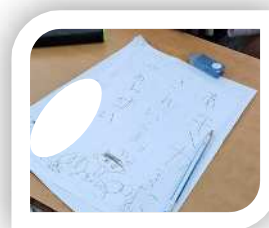
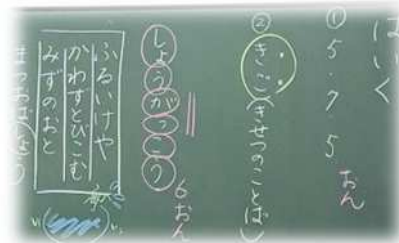
『十月の本が大すき1年生』

『十月のおさらあらいする1年生』

『十月のじゃんけんがんばるいとこの子』

『十月のおさけのすきなおとうさん』

『どんぐりをたくさんひろったきんよう日』



上五と下五を決めて、中七だけを考えることで、1年生は「俳句は難しくない」と思ってくれます。その、七音にどんな個性が生まれるか、これから楽しみな1年生です。